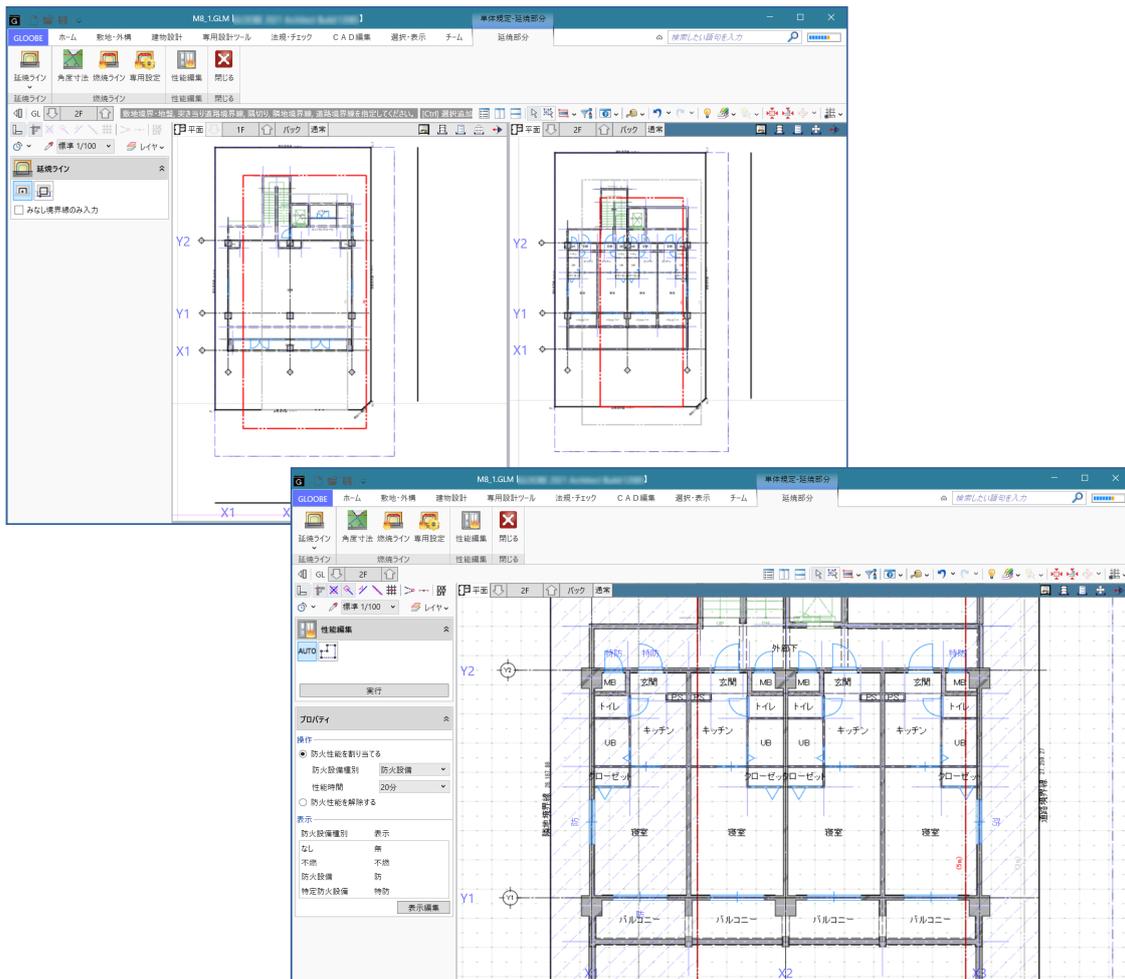


目的別マニュアル

[延焼部分編]



目次

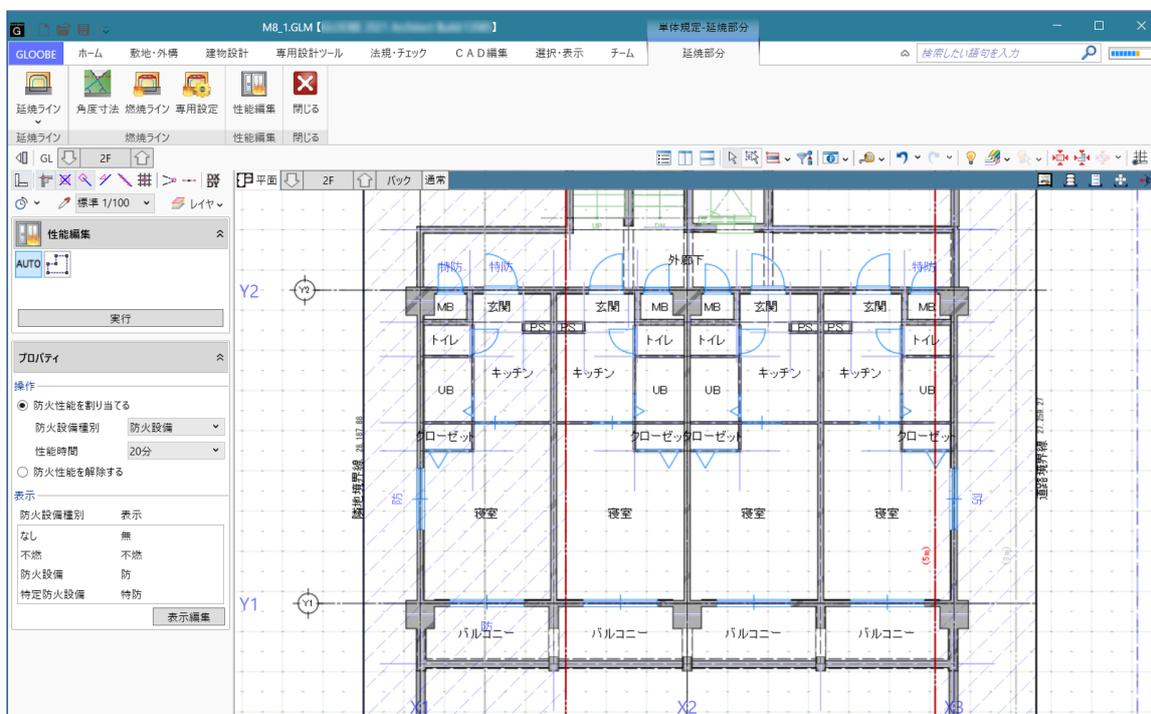
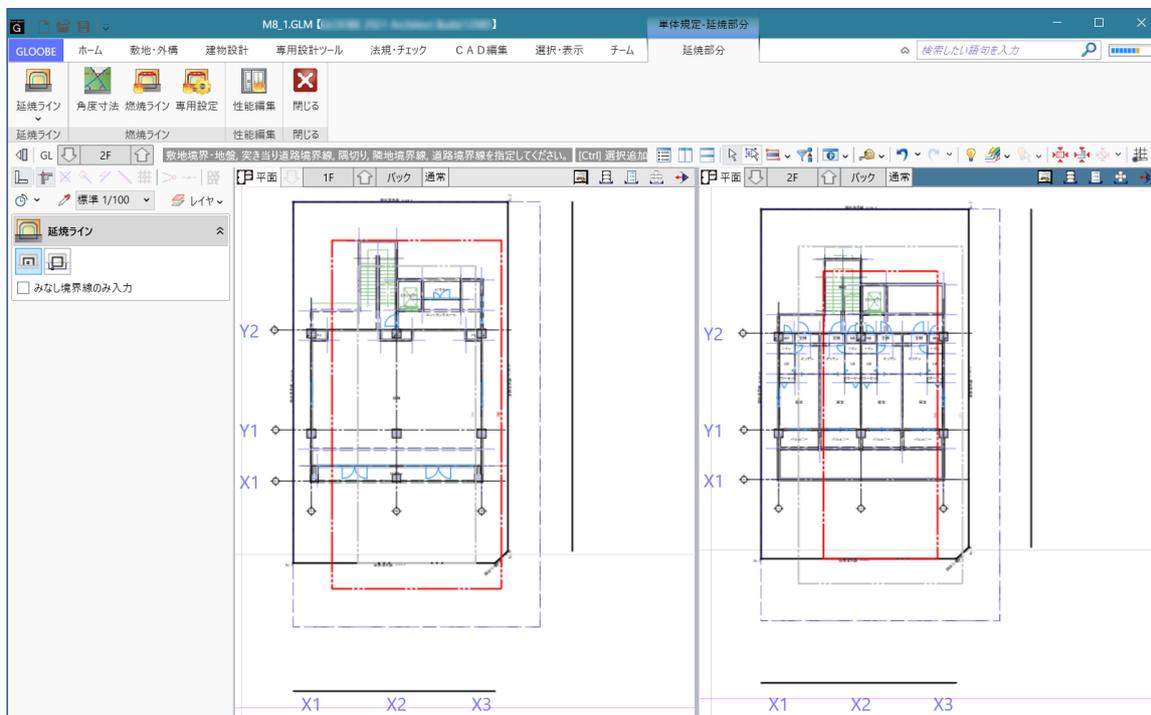
はじめに	3
1 延焼ラインの入力	4
1-1 境界線の設定	4
基礎条件を起動する	4
敷地境界線を入力する	4
1-2 延焼ラインの入力	6
延焼ラインを一括入力する	6
2 建具性能編集	7
防火設備性能を割り当てる	7
[補足] 防火設備性能の割り当てについて	8
Appendix 付録	9
A1 防災上有効な河川・公園に対応するには	10
A2 複数棟の延焼ラインを入力するには	12
A3 防火設備性能を 建具符号自動割付に反映するには	14
A4 延焼ラインを作図するには	16

はじめに

GLOOBEの「延焼部分」では、建築基準法「延焼のおそれのある部分」に関する規定の

- ① 延焼ラインの入力と作図
- ② 建具データへの防火設備性能自動設定

に対応しています。

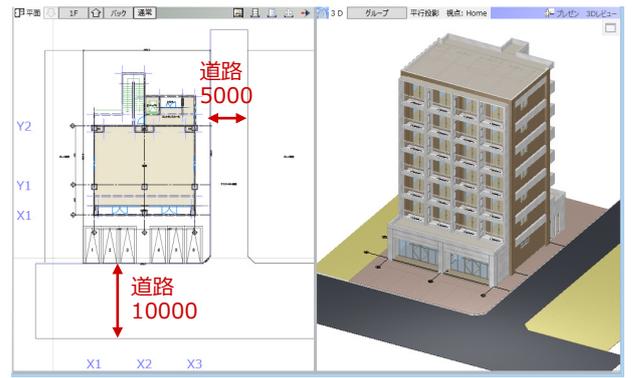


1 延焼ラインの入力

敷地の条件を設定して、延焼ラインを自動作図しましょう。
ここでは、右図のような2方向に道路がある敷地データを使用して解説します。

【解説用データ】：M8_1.GLM

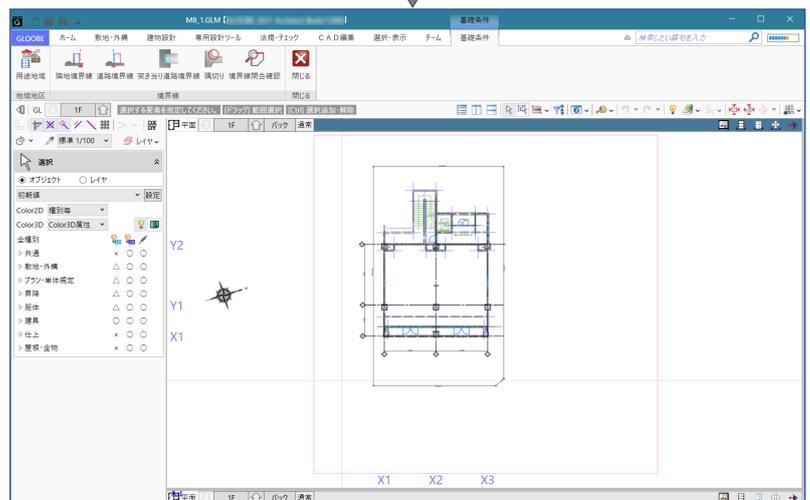
- ※ GLOBBE ボタンをクリックして「開く」を選び、「M8_1.GLM」を開きます。
- ※ 画面の拡大・縮小やビューの最大化などは、適宜行いながら操作してください。



1-1 境界線の設定

基礎条件を起動する

- ① 1階を表示します。
- ② 「法規・チェックツール」タブをクリックします。
- ③ 「用途地域境界線」を選びます。「基礎条件」タブが開きます。



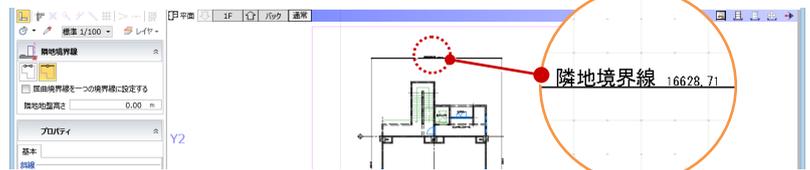
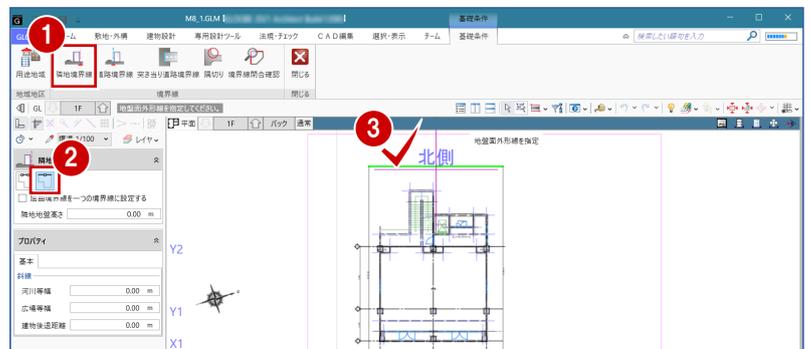
敷地境界線を入力する

隣地境界線を入力する

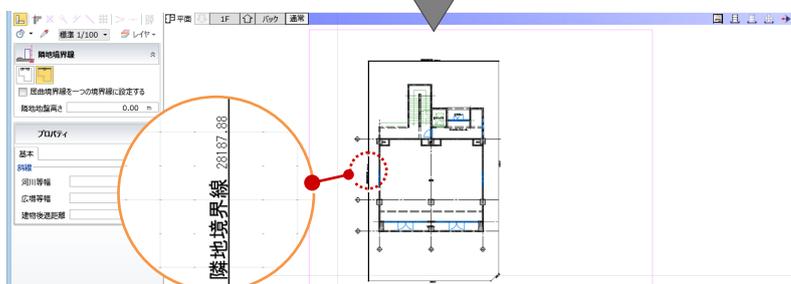
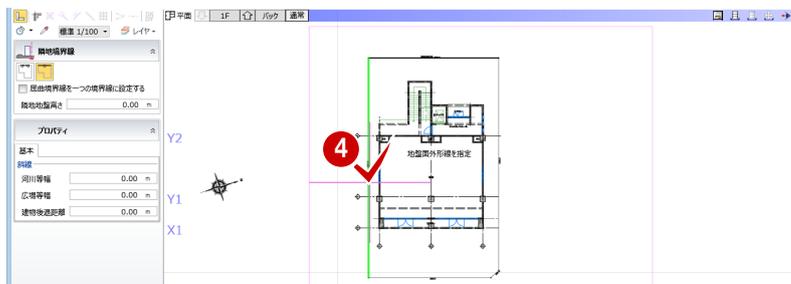
- ① 「隣地境界線」をクリックします。
- ② 入力モードが「敷地境界線指定入力」であることを確認します。
- ③ 隣地境界線に設定する敷地辺をクリックします。

指定した敷地辺上に、隣地境界線の情報が入力されます。

方位を参照して北側境界線にあたる辺には、入力時に「北側」と表示されます。



- ④ 同様に、もう一方の隣地境界線も入力します。

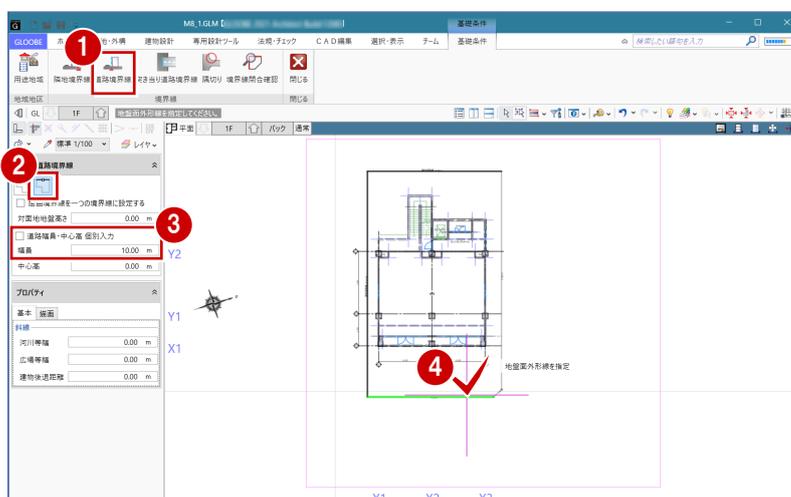


道路境界線を入力する

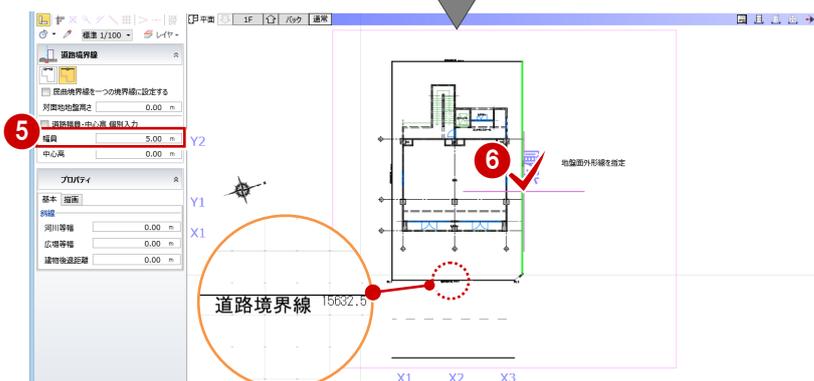
- ① 「道路境界線」を選びます。
- ② 入力モードが「敷地境界線指定入力」であることを確認します。
- ③ 「道路幅員・中心高 個別入力」をOFFにして、「幅員」を10mに設定します。

⇒ 「道路幅員・中心高 個別入力」がONの場合の入力方法については、ヘルプを参照

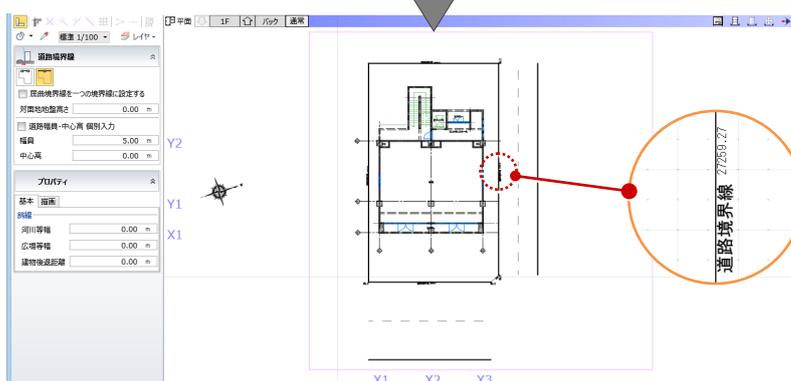
- ④ 右図の敷地辺をクリックします。
中心線と道路境界線の情報が入力されます。



- ⑤⑥ 同様に、右図の位置にも道路境界線を入力します。
「幅員」: 5m



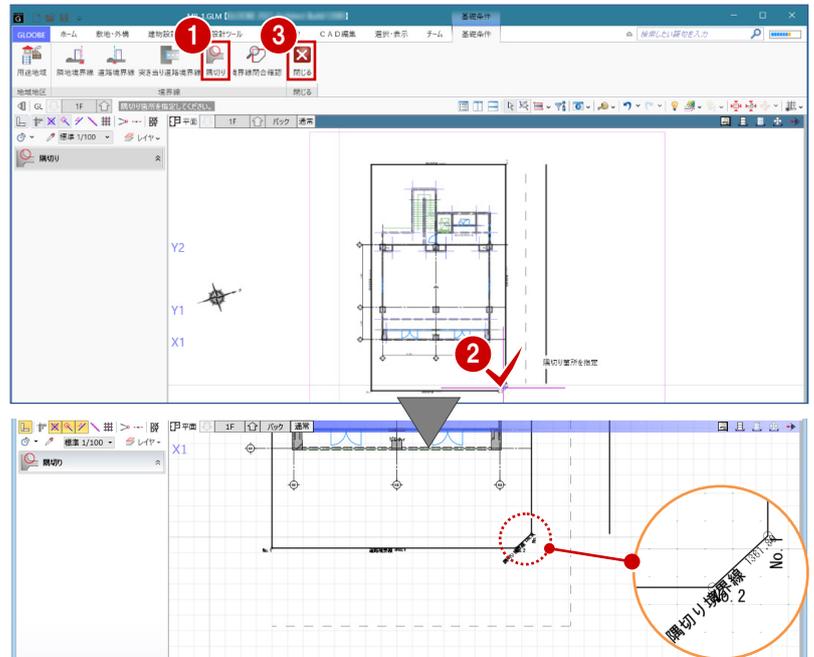
延焼ラインは、道路幅員の 1/2 の緩和を判定して入力されます。また、隣地境界線、道路境界線、隅切りなどは図面・シートで作図されるため、正しく入力しておきましょう。
なお、用途地域は延焼部分の機能に関係しないため、ここでは入力しません。



1 延焼ラインの入力

隅切りを入力する

- ① 「隅切り」 を選びます。
- ② 隅切り箇所をクリックします。
指定した敷地边上に、隅切りの情報が入力されて、道路の中心線につながります。
- ③ 「閉じる」 を選びます。

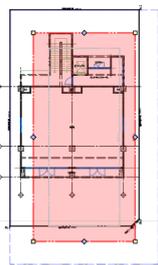


1-2 延焼ラインの入力

延焼ラインを一括入力する

- ① 「法規・チェック」 タブの「延焼部分」 をクリックします。
- ② 「延焼ライン」 をクリックします。
- ③ 入力モードが「一括」であることを確認します。
- ④ 敷地をクリックします。
道路境界線の道路幅員の緩和を考慮して延焼みなし境界線が作成され、1階に3m、2階以上に5mの延焼ラインが配置されます。

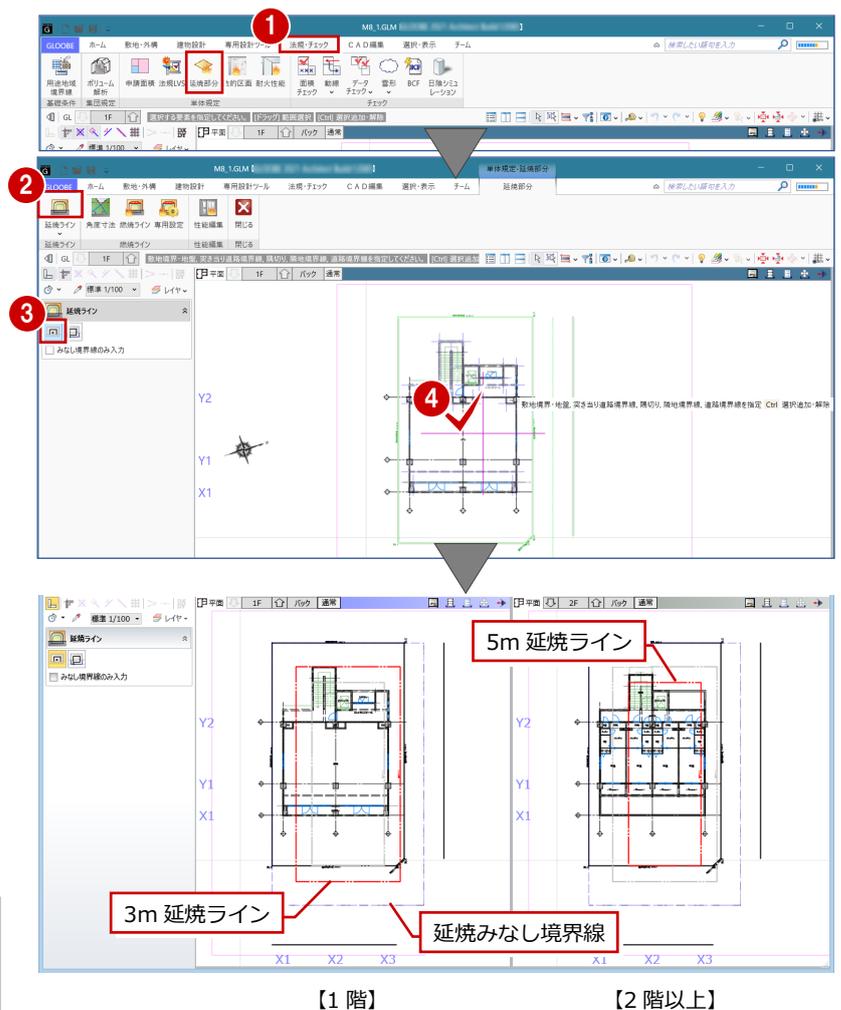
延焼ラインを選択すると、領域データになっており、これが「延焼のおそれのない領域」です。つまり、この領域以外の部分が「延焼のおそれのある部分」になります。



部材の表示について

「延焼部分」タブでは、次のオブジェクトのみ表示され、それ以外は2D表示がOFFになります(3D表示は変更しません)。

方位、敷地境界・地盤、通り芯、基準芯、スペース、延焼ライン、延焼みなし境界線、階段、エレベータ、柱、壁、壁開口、建具、カタログ建具、サスペンドガラス、カーテンウォール、用途地域、敷地境界線



次の場合の延焼ライン入力方法を「Appendix 付録」に掲載しています。

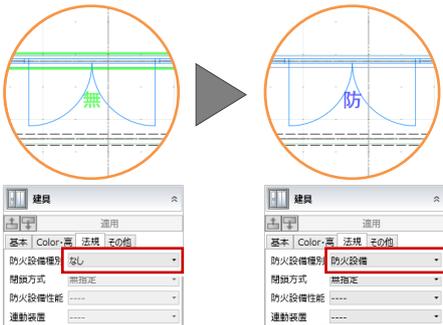
- ⇒ 防災上有効な河川・公園に対応するには (P.10)
- ⇒ 複数棟の延焼ラインを入力するには (P.12)

2 建具性能編集

延焼ラインを参照して、「延焼のおそれのある部分」に属する外部建具に防火設備性能を割り当てましょう。

防火設備性能を割り当てる

- 1 「性能編集」をクリックします。
「延焼のおそれのある部分」に属する建具がハイライト表示（図例：黄緑）されます。
- 2 入力モードが「AUTO」であることを確認します。
- 3 「防火設備性能を割り当てる」がONになっていることを確認します。
- 4 「実行」をクリックします。
- 5 確認画面で「OK」をクリックします。
ハイライト表示されたすべての建具のプロパティに「防火設備」が設定されます。
⇒ 詳しくは、次ページ参照

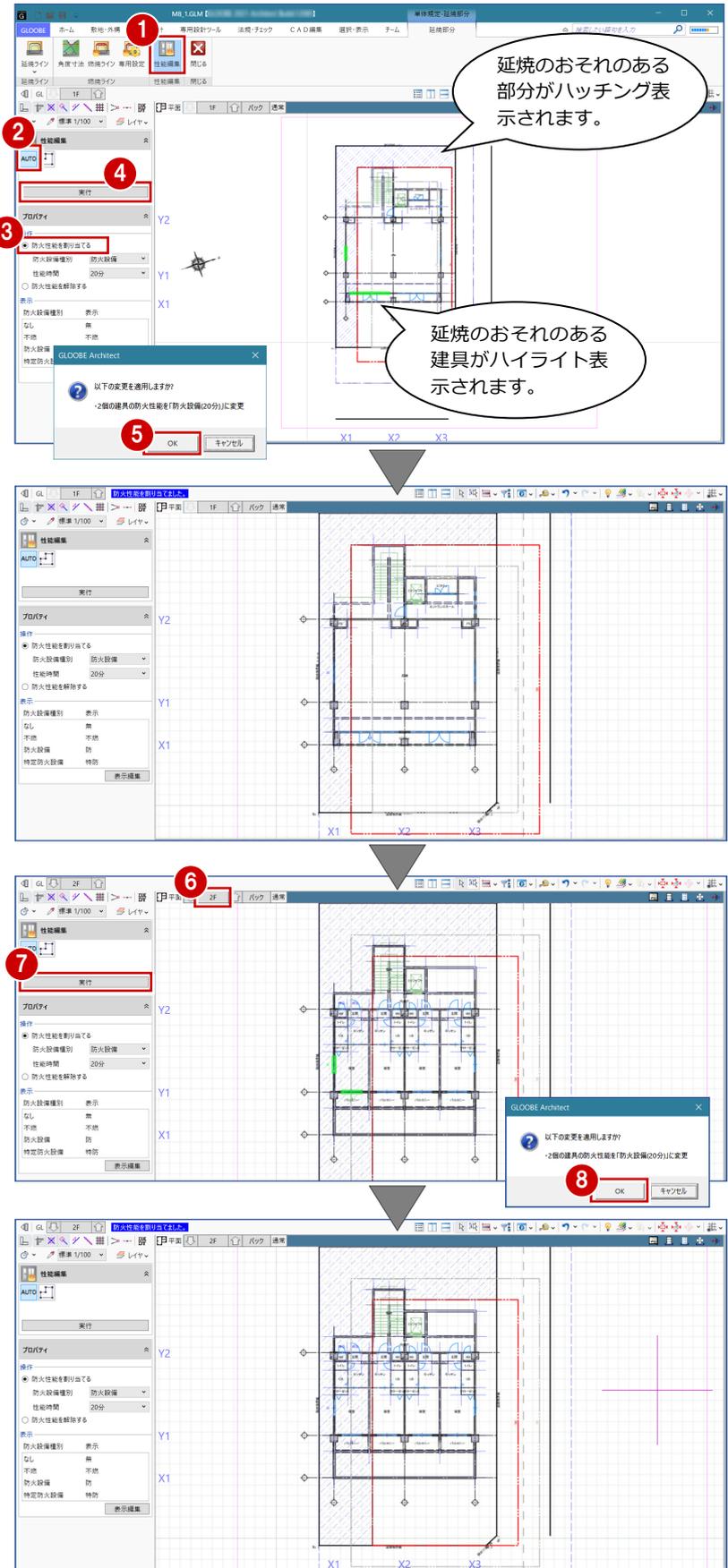


- 6～8 階を変更して、同様に防火性能を割り当てます。

※ 建具性能編集は、各階で行います。

範囲を指定して防火設備性能を割り当てる

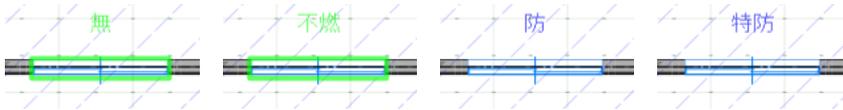
入力モードの「範囲選択」を使用すると、ハイライト表示された建具のうち、指定した範囲内の建具に防火設備性能を割り当てることができます。任意の建具の性能編集を行うときに使用します。



補足 防火設備性能の割り当てについて

建具のプロパティ「法規」タブの「防火設備種別」には、性能の低い順に「なし」「不燃」「防火設備」「特定防火設備」があります。

「性能編集」では、外部に面する建具・カタログ建具の敷居部分が「延焼のおそれのある部分」に接している場合、「防火設備種別」が表示されます。

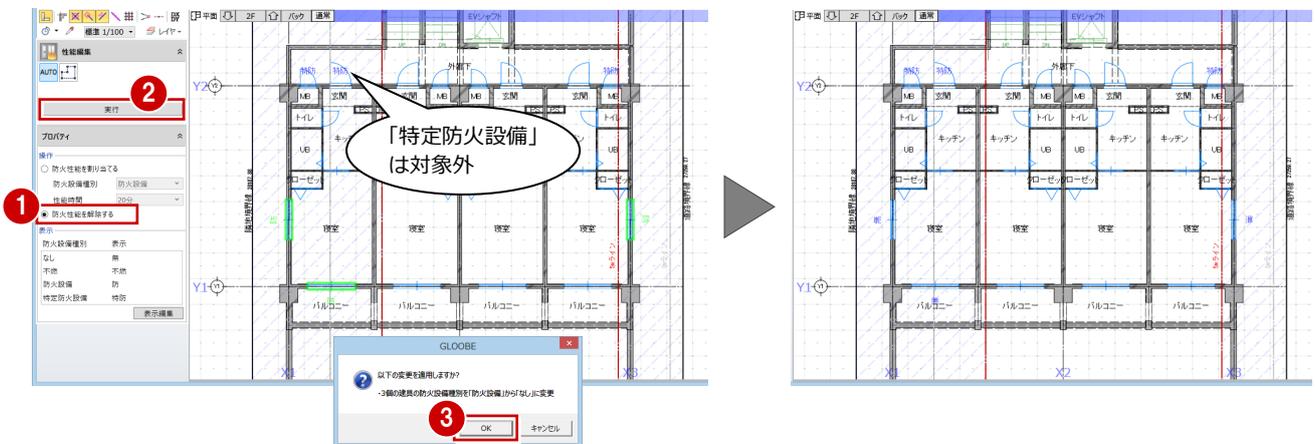


防火設備性能を割り当てる場合

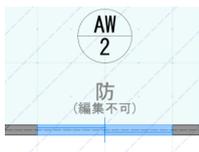
「防火設備性能を割り当てる」がONのときは、「なし」と「不燃」が対象になり、「防火設備」が設定されます。

防火設備性能を解除する場合

「防火設備性能を解除する」がONのときは、「防火設備」と「不燃」が対象になり、「なし」が設定されます。



※ 建具表に登録している建具は、「性能編集」の対象外になります。



※ 防火設備性能の表現は、「表示編集」で変更できます。



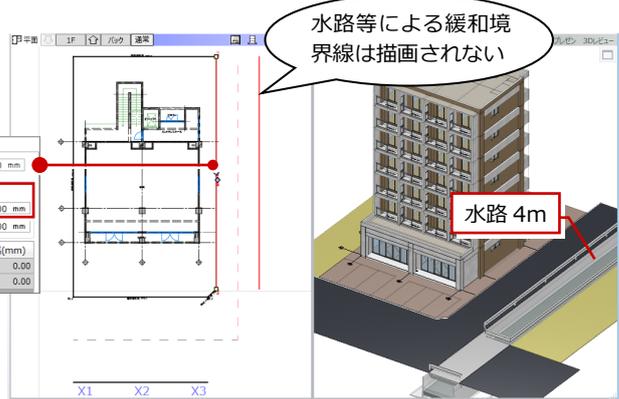
Appendix

付録

A1 防災上有効な河川・公園に対応するには

建築基準法第二条第六号に規定する「防火上有効な公園、広場、川等の空地若しくは水面」の定義が一定ではないことから、延焼みなし境界線の自動入力では、境界線属性の「河川等幅」「広場等幅」は考慮されません。

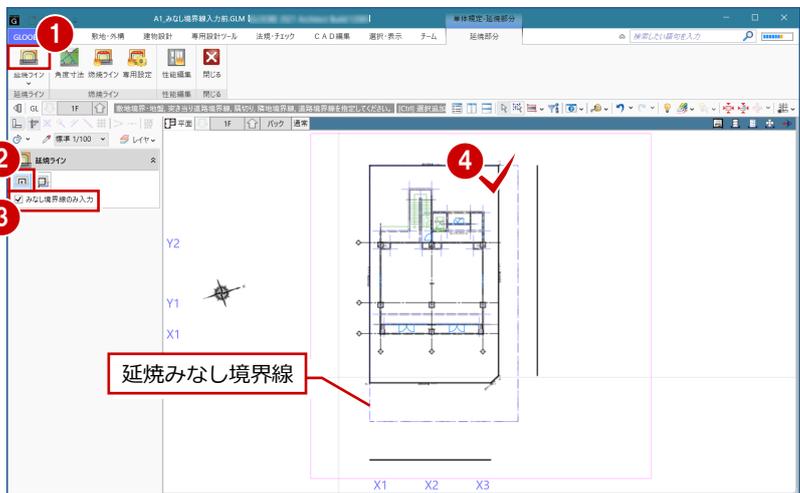
基本	算定用道路	描画	基本	算定用道路	描画
境界線種別	道路境界線		2m距離計算基準幅員	5000.00 mm	
北側境界線	設定方法		幅員	一律	
河川等幅	4.00 m		中心高	0.00 mm	
広場等幅	0.00 m		頂点	幅員(mm)	中心高(mm)
建物後退距離	0.00 m		1	5000.00	0.00
対面地盤高さ	0.00 m		2	5000.00	0.00



審査機関の指示により、河川や広場の扱いに対応する場合は、以下の方法で操作してください。ここでは、河川を中心線を隣地境界線として扱うケースで説明します。

延焼みなし境界線を入力する

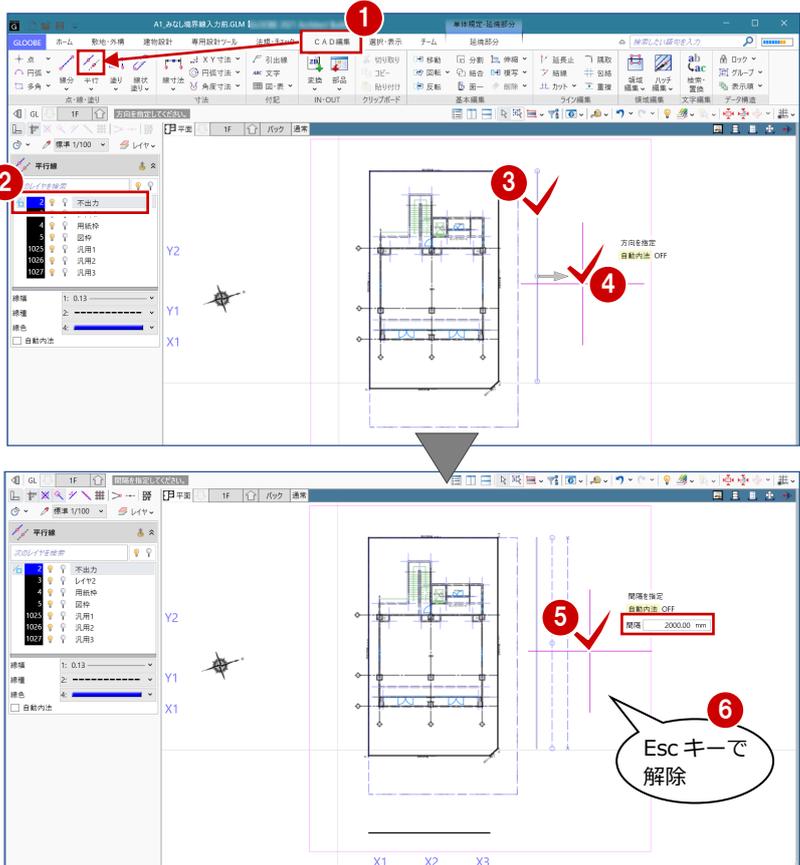
- 1 「延焼ライン」をクリックします。
- 2 入力モードが「一括」であることを確認します。
- 3 「みなし境界線のみ入力」をONにします。
- 4 敷地をクリックします。
延焼みなし境界線が配置されます。



補助線を入力する

ここでは、河川（幅4m）の中心線を隣地境界線として扱うため、道路境界線の対面境界線から2m外側に補助線を入力します。

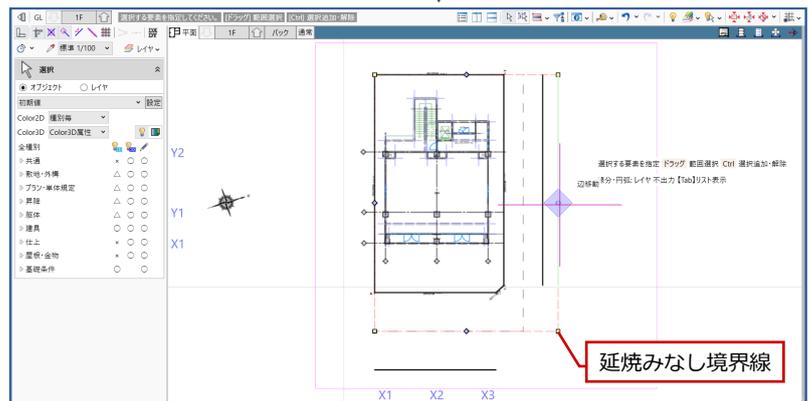
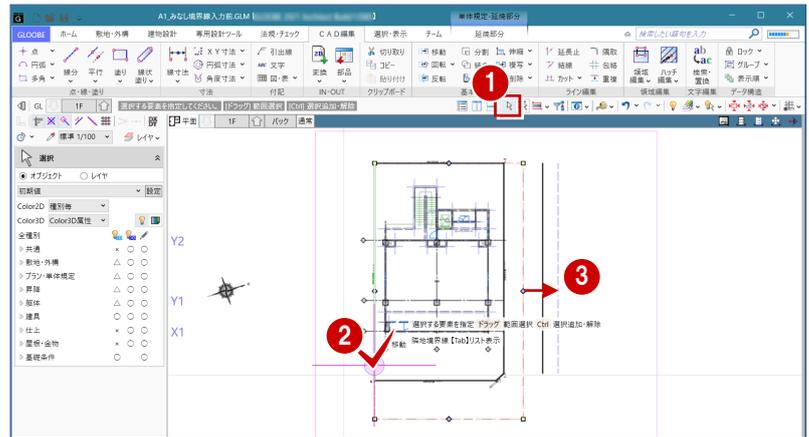
- 1 「CAD 編集」タブをクリックして、「平行線」を選びます。
- 2 「レイヤー一覧」で「不出力」を選びます。
- 3 基準線として、北側の道路境界線の対面境界線をクリックします。
- 4 補助線を入力する方向をクリックします。
- 5 数値キーより「間隔」に「2000」と入力して、そのまま現状の位置をクリックすると、補助線が配置されます。
- 6 次の候補ラインが仮表示されている状態で、Esc キーを押してコマンドを解除します（2本目は配置されません）。



延焼みなし境界線を広げる

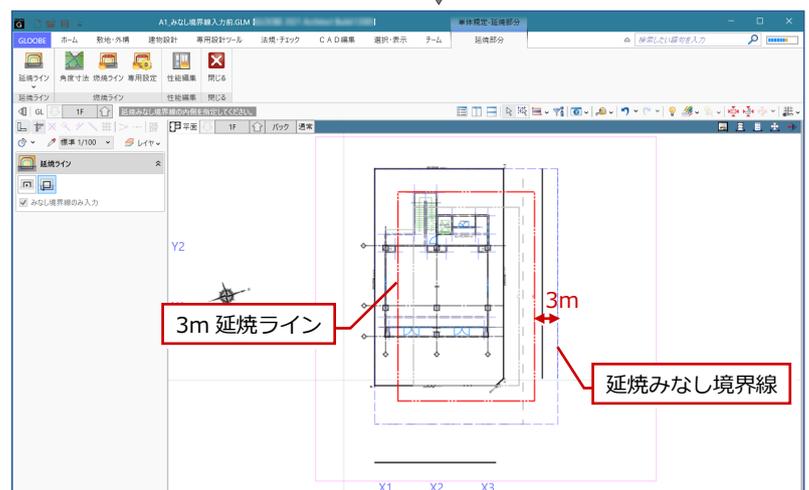
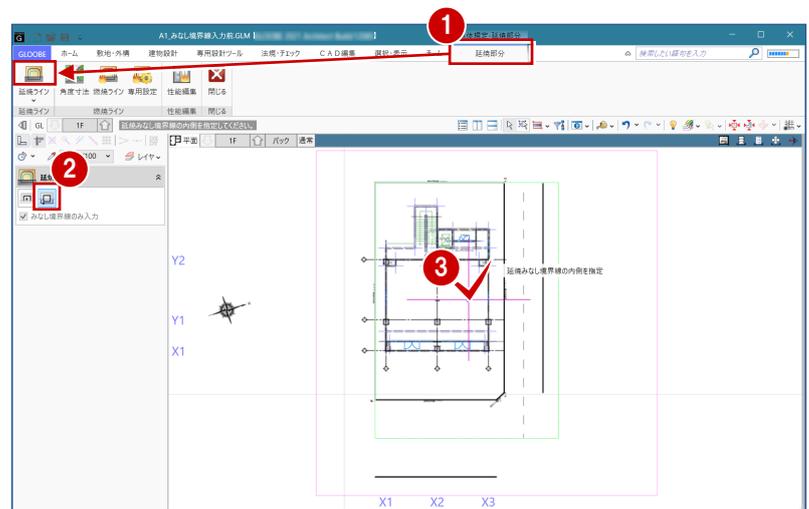
- ①② 延焼みなし境界線を選択します。
- ③ ハンドルを使って、延焼みなし境界線を補助線の位置まで広げます。

延焼みなし境界線は領域データのため、「領域プラス・マイナス」などの領域編集機能を使用することもできます。



延焼ラインを入力する

- ① 「延焼部分」タブをクリックして、「延焼ライン」を選びます。
- ② 入力モードを「みなし境界線参照」に変更します。
- ③ みなし境界線をクリックします。
延焼みなし境界線の内側に、1階は3m、2階以上は5mの延焼ラインが配置されます。



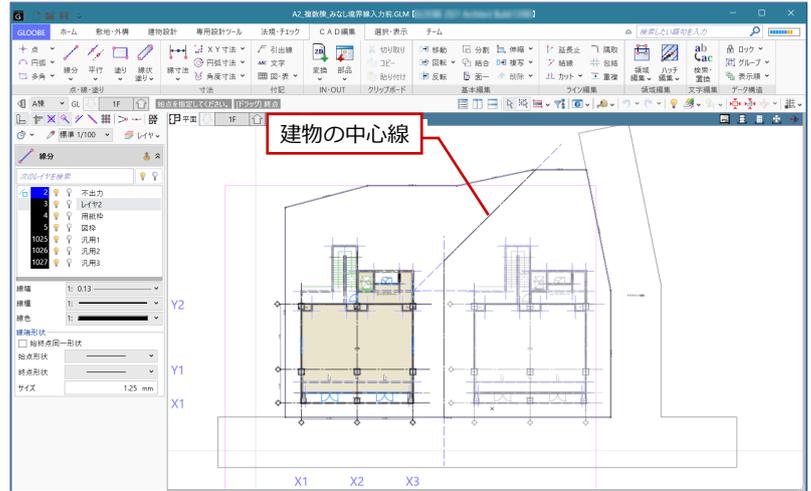
A2 複数棟の延焼ラインを入力するには

同一敷地内に複数の建築物がある場合は、相互の外壁線の中心線からそれぞれの延焼ラインを発生させます。

ここでは、右図のような中心線で分割した複数棟の建物を例に解説します。

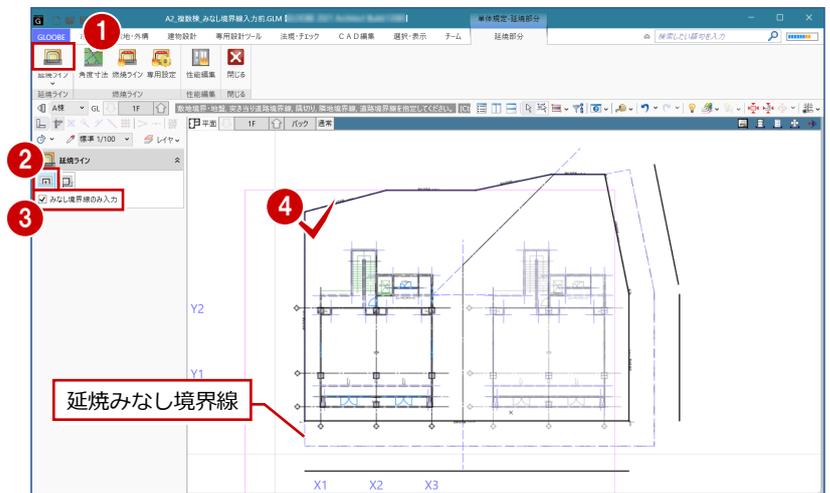
※ あらかじめ、「CAD 編集」タブの汎用機能を使って、建物間の中心線を入力しておきます。

※ 中心線の取り方は、審査機関の指示に従ってください。



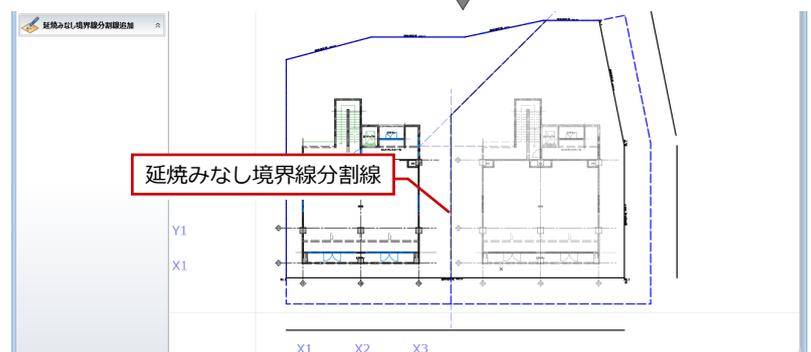
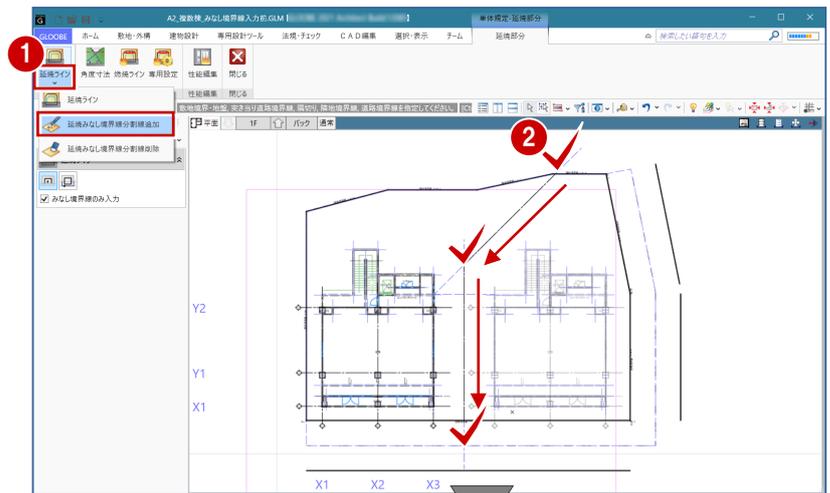
延焼みなし境界線を入力する

- ① 「法規・チェック」タブの「延焼部分」の「延焼ライン」をクリックします。
- ② 入力モードが「一括」であることを確認します。
- ③ 「みなし境界線のみ入力」を ON にします。
- ④ 敷地内をクリックします。
延焼みなし境界線が配置されます。



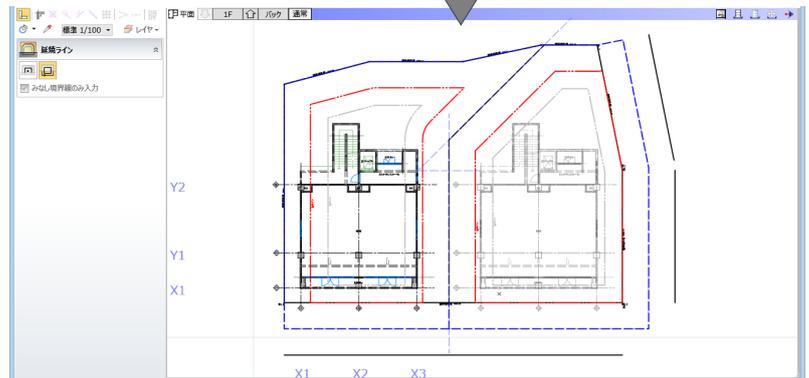
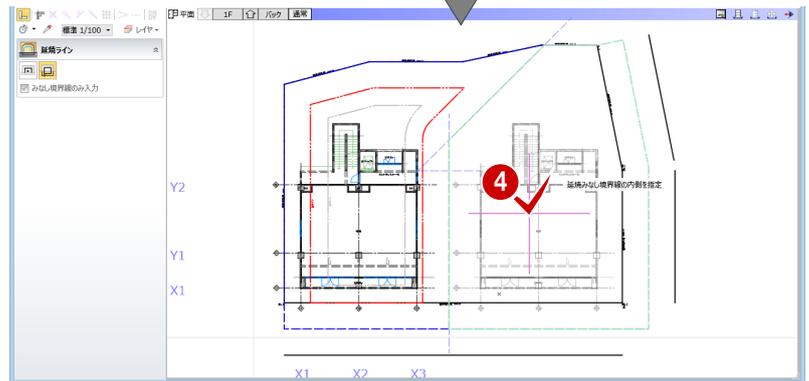
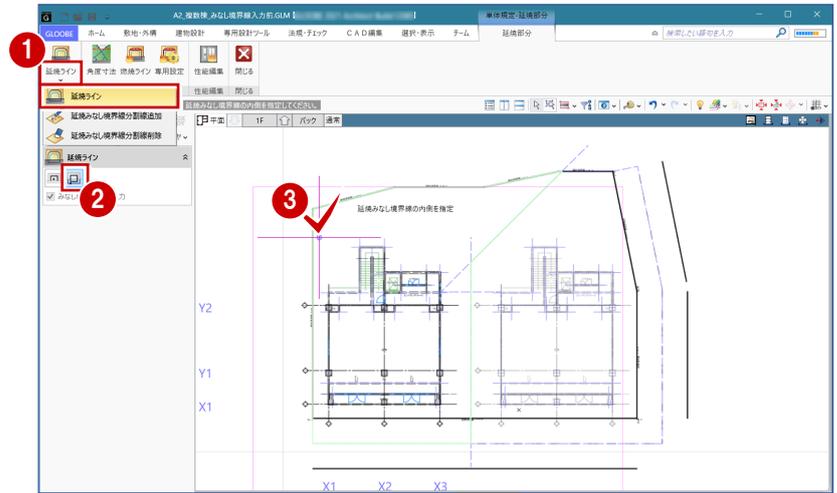
みなし境界線分割線を入力する

- ① 「延焼ライン」メニューから「延焼みなし境界線分割線追加」を選びます。
- ② 延焼みなし境界線をまたぐように、分割線の入力位置（右図交点）を順にクリックします。



延焼ラインを入力する

- ① 「延焼ライン」メニューから「延焼ライン」を選びます。
- ② 入力モードを「みなし境界線参照」に変更します。
- ③ みなし境界線の分割した領域内をクリックします。
延焼みなし境界線と分割線を参照して、1階は3m、2階以上は5mの延焼ラインが配置されます。
- ④ もう一方の分割した領域内をクリックします。
同様に、延焼みなし境界線と分割線を参照して延焼ラインが配置されます。



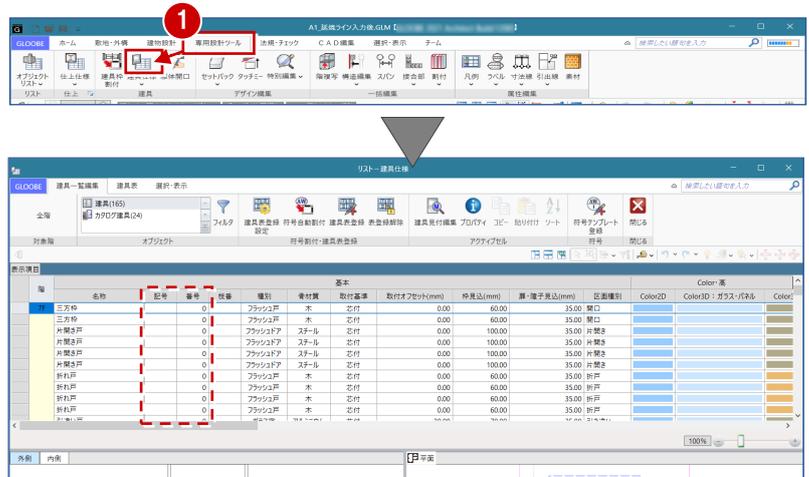
A3 防火設備性能を建具符号自動割付に反映するには

P.7 で割り当てた建具の防火設備性能を考慮して、「建具仕様」で建具符号を割り付けてみましょう。

建具仕様を開く

- 1 「専用設計ツール」タブをクリックして、「建具仕様」を選びます。
「リスト-建具仕様」ウィンドウが開いて、建具のプロパティが一覧表示されます。

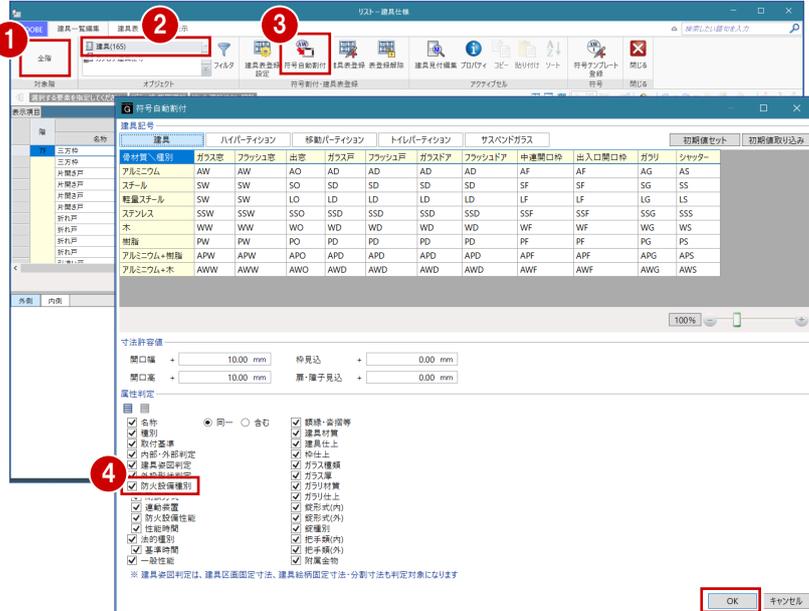
建具の種類・骨材質が未設定の場合は、「符号自動割付」を実行したときに建具符号が割り当たりません。プロパティを確認しておきましょう。



建具符号を割り付ける

- 1 対象階が「全階」になっていることを確認します。
- 2 オブジェクトで「建具」を選びます。
- 3 「符号自動割付」をクリックします。
- 4 「防火設備種別」が ON になっていることを確認して、「OK」をクリックします。

「防火設備種別」が ON のとき、建具のプロパティの「防火設備種別」を考慮して符号を割り当てます。



- 5 確認画面で「OK」をクリックします。
記号・番号が割り付けられます。



- 6 オブジェクトで「カタログ建具」を選びます。
- 7 同様に、「符号自動割付」をクリックして建具符号を割り付けます。

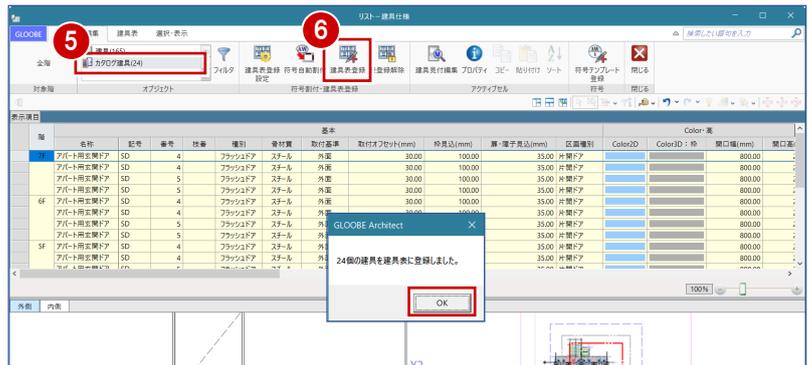


建具表に登録する

- 1 オブジェクトで「建具」を選びます。
- 2 「建具表登録」をクリックします。
- 3 範囲が「全表示行」であることを確認して、「OK」をクリックします。
- 4 確認画面で「OK」をクリックします。
建具符号が付けられ、プロパティの変更ができなくなります。同一符号の建具は、すべて同じ建具に変更されます。

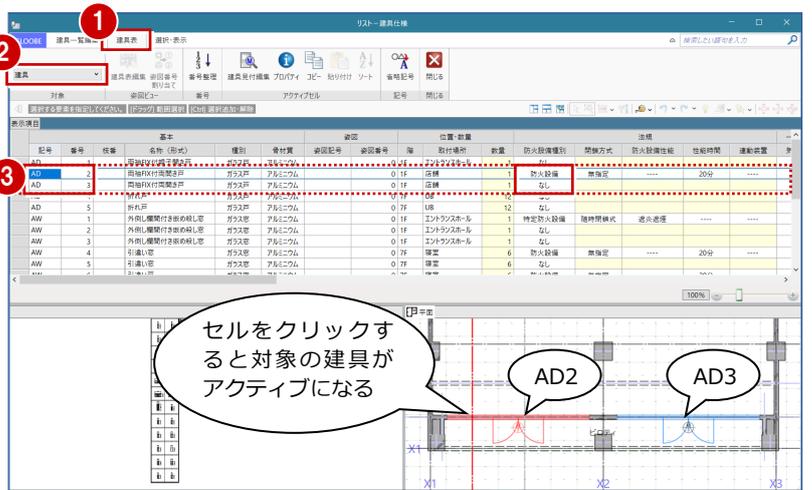


- 5 オブジェクトで「カタログ建具」を選びます。
- 6 同様に、「建具表登録」をクリックして全表示行を建具表に登録します。

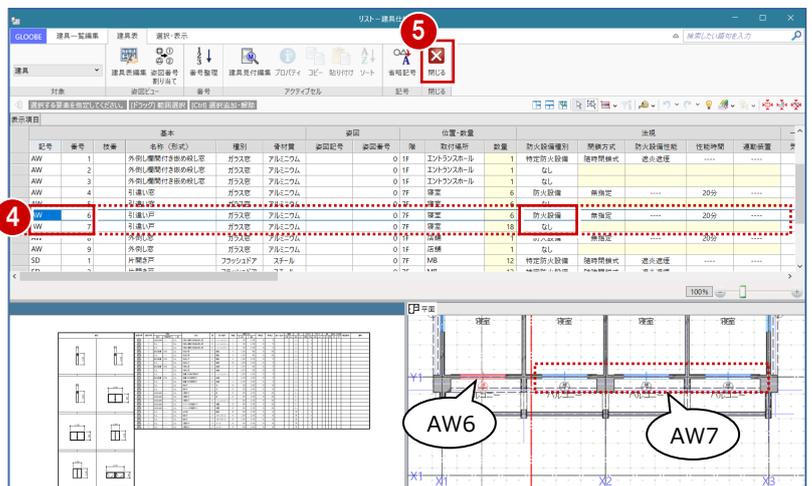


建具符号を確認する

- 1 「建具表」タブをクリックします。
- 2 対象を「建具」に変更します。
同一符号の建具がまとめて表示されます。
- 3 「AD 2」・「AD 3」の行をクリックしてみましょう。同じ建具ですが、「防火設備種別」が異なると別の符号になっていることを確認できます。



- 4 同様に、「AW 6」・「AW 7」(3枚)の行をクリックして確認しましょう。
- 5 確認が終了したら、「閉じる」をクリックします。



A4 延焼ラインを作図するには

敷地境界線や延焼ラインを表示した図面を作成しましょう。ここでは、建具キープランを例に解説します。

建具キープランを作成する

- 1 「ホーム」タブをクリックして、「図面作成」を選びます。
「図面」タブが開きます。
- 2 「詳細・実施図」メニューから「建具キープラン」を選びます。
- 3 テンプレートから「01_実施図」の「01_建具キープラン」を選びます。
- 4 「対象要素」をクリックします。
- 5 次の項目がONになっていることを確認して、「OK」をクリックします。
「プラン・単体規定」
「延焼ライン」「延焼みなし境界線」
「ボリューム解析」または「敷地・外構」
「敷地境界線」
- 6 「詳細指定」をクリックします。
「詳細指定」ウィンドウが開きます。
- 7 1階の作成範囲を指定します。
- 8 9 対象階を2階に変更して、作成範囲を指定します。
- 10 「閉じる」をクリックします。
「図面」ウィンドウに戻ります。

- 11 12 配置図面（1F）を選択して、配置位置をクリックします。
- 13 14 配置図面（2F）を選択して、配置位置をクリックします。
各図面が配置・表示されます。

敷地境界線・延焼ラインが表示されないときは
「図面再作成」で、「対象要素」の次の項目がONになっているか確認してください。

- ・「ボリューム解析」 - 「敷地境界線」
- ・「プラン・単体規定」 - 「延焼ライン」「延焼みなし境界線」

今後、これらを常に表示する場合は、「対象要素」をONにして、テンプレートを更新してください。

